

1 畜産女性農業者の経営意欲向上への取り組み ～全国モーモー母ちゃんの集い i n あきた開催を通じて～

秋田県中央家畜保健衛生所
○齋藤 明子

要 約

畜産業において大きな役割を果たしている畜産女性農業者の経営意欲向上は、畜産の持続的発展にも重要である。これに資するため「全国モーモー母ちゃんの集い i n あきた」の開催を支援した。平成 26 年度に全国大会実行委員会を設立し、家保職員も事務局の一員として参画して、活動全般の支援を実施し、女性農業者の自主性を重んじつつ、フォローアップに努めた。県内市町村巡回による PR や支援要請にも同行し、秋田県内対象の「秋田県モーモー母ちゃんの集い」を開催した。これらの活動により全県に畜産女性農業者のネットワークを広め、全国大会認知度を高めた。平成 27 年 7 月に全国大会を開催し、県内外からの 400 名余の参加者に対し、視察研修、パネル展示等を通じて秋田県の畜産を PR した。県内参加者は、全国からの参加者との交流により大きな刺激を受け、技術習得及び経営意欲の向上が見られた。実行委員会は全国大会終了後も名称を変えて組織を存続、畜産女性農業者間の交流研修活動を継続する予定である。

1 はじめに

秋田県では水稲単一から複合生産への転換を目指しており、畜産はその複合部門の中心である。

畜産業における女性の役割は大きく、畜産女性農業者の経営意欲向上は畜産の振興と持続的発展にとって重要と考えられる。この経営意欲向上に資するため、全国モーモー母ちゃんの集い i n あきた（以下「全国大会」）の開催を支援したので、その概要を説明する。

2 全国モーモー母ちゃんの集いとは

「全国モーモー母ちゃんの集い」は、肉牛、酪農経営に携わる女性が情報交換・交流を深めるために、自主的に組織している全国的なネットワークで、2 年に一度、全国規模の大会を開催してきた。

3 秋田県で全国モーモー母ちゃんの集いを

平成 25 年春に全国畜産縦断いきいきネットワークの一員である酪農家女性の柴田誠子氏が、全国モーモー母ちゃんの集いの県内開催の支援を関係機関に打診したことをきっかけに、県、由利本荘市、



写真1 平成25年7月 都城市での情報収集

秋田しんせい農業協同組合では、この開催を支援することにした。

平成 25 年 7 月、宮崎県都城市で開催された第 7 回全国モーモーマーちゃんの集い in みやざき（以下「宮崎大会」）に、畜産女性農業者 5 名と各関係機関から 6 名が参加し、情報収集と次回の秋田県開催の PR をした（写真 1）。

4 実行委員会設立

宮崎大会参加者を中心に、25 年 11 月に全国大会実行準備委員会を立ち上げた。

平成 26 年度に入り、実行準備委員会を母体とした全国大会実行委員会を設立し、畜産女性農業者 20 人が委員となった。由利本荘市を筆頭に、にかほ市、J A 秋田しんせい、農業公社、県畜産振興課、由利地域振興局、中央家畜保健衛生所（以下「中央家保」）が、畜産女性農業者の自主性を尊重しながらサポートを行うこととした。

中央家保では全国大会までの工程表案を提案し、今後の進め方のイメージを実行委員会内で共有した。

また年度内に県内畜産女性農業者等を対象とした秋田県モーモーマーちゃんの集い（以下「プレ大会」）を開催することとした。

5 プレ大会に向けて

プレ大会の前に、知名度向上のため、各地域振興局の協力を得て、PR キャラバンを県内市町村で実施、委員が交渉の前面に出るようにしながら活動を行った（写真 2）。プレ大会の準備のため実行委員会を開催し、委員が司会、受付等を担当し、関係機関の職員がこれをサポートする形とした。

中央家保は、委員の舞台に立つ機会を増やすために、1 分間スピーチと宮崎大会の報告を委員が行うことを提案し、報告資料作成の補助をした。



写真 2 県内市町村での PR キャラバン

6 プレ大会開催

平成 26 年 12 月 3 日に、プレ大会が本番を迎え、県内から 140 名余りの参加があった。

ドキュメンタリー映画放映の後、実行委員による宮崎大会の報告がリレー方式で行われた（写真 3）。

1 分間スピーチでは、委員が全国大会開催に対する意気込み等をユーモアを交えて熱く語った（写真 4）。



写真 3 プレ大会での実行委員による報告

最後に壇上で参加者と委員が、会場で手書きした名刺の交換を行った（写真5）。後日、これが他の地域との交流のきっかけになったとの報告もあった。



写真4 プレ大会での1分間スピーチ



写真5 参加者との名刺交換

7 全国大会開催に向けて

プレ大会終了後、この会の反省を踏まえ、全国大会の内容について実行委員会で話し合い、27年2月に、全国の畜産女性農業者等に全国大会の開催案内を発送し、委員の意見を反映させたポスターやユニフォーム、記念品等の発注も始めた。

委員の発案で、あきた総合家畜市場での委員による全国大会参加呼びかけを実施し、プレ大会と宮崎大会の展示物を中央家保が作成し、市場に展示した。関係団体を巡回し、協賛依頼と公告の募集やポスター提供をした。

中央家保は、委員が楽しみながら活躍できることを念頭に置き、全国大会シナリオ、タイムスケジュール付き役割分担表の案を提示し、実行委員会で検討し、詳しい動きを確認できるようにリードした。

全国大会用に、秋田県畜産をPRするためのパネル展示と映像放映を提案し、畜産試験場や畜産振興課と連携して手配した。

8 全国大会開催

(1) 大会

本番前々日にリハーサルを開催し、大会当日を迎えた（写真6）。県内外から400名余り



写真6 全国大会当日の受付の様子



写真7 秋田の畜産PRパネル

の参加があり、うち約 200 名は県外からの来場者であった。

会場内では、秋田県有種雄牛や秋田比内地鶏のパネル展示を行い、秋田県の畜産を PR した。秋田牛を紹介する映像が放映された（写真 7）。



写真8 オープニングパフォーマンス なまはげ太鼓

大会は、なまはげ太鼓の勇壮なライブで幕を開け（写真 8）、実行委員会会長や来賓あいさつ、モーモー母ちゃん誕生の紹介、基調講演と続いた。



写真9 基調講演「肉と牛乳で長生き」
講師 元秋田プリマ社長 丹羽博和氏



写真10 基調講演「女性の感性で牛を飼う楽しみ」
講師 加藤 真姫子獣医師

基調講演では、元秋田プリマ食品社長の丹羽博和氏が「肉と牛乳で長生き」と題して講演した。肉や牛乳の適度な摂取が健康に良い影響を与えるといった内容であった。

中央家保の加藤真姫子獣医師の「女性の感性で牛を飼う楽しみ～移行期管理と初乳のおはなし～」が講演され、分娩前後の牛の管理等に関する内容で、参加者から「こういう話を聞きたかった」等の声が聞かれるなど、特に好評であった。

1 分間スピーチでは、県内外からの参加者が壇上で熱心に発表し、時間が不足し、交流会で改めて時間を作ることになった。

(2) 交流会



写真11 西馬音内盆踊り

由利本荘市内のホテルに会場を移した交流会では、牛乳での乾杯の後、秋田牛等の特産品を使った料理が提供され、県内羽後町に伝わる西馬音内盆踊りが披露された(写真11)。

秋田県の委員の余興や(写真12、13)、県外参加者による牛飼いの女性ならではの余興が披露され、大変盛り上がり、大会での約束どおり1分間スピーチも行われた。



写真12 秋田県実行委員による余興



写真13 秋田県実行委員による民謡

(3) 閉会行事

明けて7月7日の閉会行事では、委員一人一人が参加者に向けて挨拶した(写真14)。



写真14 閉会行事 実行委員あいさつ



写真15

(4) あきた総合家畜市場での現地研修

閉会行事終了後、現地研修先のあきた総合家畜市場に向った。

家畜市場を視察した県外参加者からは、「買いたい牛がたくさんいる、改めて買いに来たい。」等の声もあった(写真15)。

現地研修終了後、県外参加者のバスを見送り、大会が終了した。委員や関係者は達成感と心地よい疲労感を感じたと思われる。

家畜市場研修(全国誌の紹介記事から)

9 実行委員会解散総会

全国大会とそれに関わる諸事が完了したため、11月に全国大会実行委員会の解散総会が開催され、これまでの活動等が報告された。

実行委員会は解散となったが、名称を変更し畜産女性農業者の交流と研修活動をする組織を立ち上げる方向となった。

解散総会で、委員から一言ずつ大会に関しての感想を述べてもらったところ、「大勢の人の前で話す機会があり、ドキドキしたが楽しかった。」「仲間作りができてよかった。」、県外の女性との交流では、「とにかくパワーをもらった。」との声がたくさん聞かれた。「東日本大震災で被災した方も元気に明るく頑張っている様子を見て、自分も頑張らなくてはと思った。」「自分よりも高齢な女性が牛の交配方法について勉強し、凍結精液を取り寄せているという話を聞いて、負けられないと思った。」等と話してくれた人もいた（写真16）。

10 まとめ

積極的に人の前に出たがらない県内の女性農業者にとって、委員としての活動は、積極性を発揮する良い機会になったと思う。

また、全国や他地域の畜産女性農業者との交流の場となり、これにより経営意欲が刺激された。

全国大会実行委員会は県内の畜産女性農業者の交流研修組織として生まれ変わる予定であり、この活動により、県内の畜産を担う女性農業者がますます元気に活躍し、秋田県の畜産全体が盛り上がっていくことを祈念したい。



写真16 第8回全国モーマー母ちゃんの集いinあきた
全国の仲間たちとの記念撮影

結 び

実行委員の頑張り、多くの方々のご協力を得て、大会を開催することができました。ご協力いただいた皆様に、心からの感謝を申し上げます。